

yamabuki i 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より
パソコン室から 不定期 発行

No.59

平成19年10月9日
情報教育アドバイザー
広田 さち子

日本語変換は、ワードか一太郎か？

厳密には、この言い方はおかしいのですが、分かりやすくこう書いています。

日本語変換システムというのは、たいていワープロ製品に同梱されているからです。

ワードに付いてくるのが、MS-IMEと呼ばれる変換システムで、一太郎に付いているのがATOK (エイトック) です。このMS-IMEは、OS (Windows) に初めから付いているものとほぼ同じです。

よく、ワードと一太郎、どちらがいいですか？という質問に出会いますが、これは、ワープロソフトの話で、日本語変換システムだけで言うと、ATOKの方が、使いやすいでしょう。日本語変換システムとして、ワープロソフトとは別に、単品で購入することができます。

分かりやすい例で言うと、初期状態 (学習していない状態) で

「きょうはくもっています」

と入力して変換してみるとよくわかります。

MS-IMEでは、「脅迫持っています」となります。日本語変換システムでは、たいてい変換可能な最大文字数の単語を探すようになっています。つまり、「きょうはく」という単語が見つかるので、これを「脅迫」という漢字に置き換えてしまいます。残りの「もっています」を「持っています」と変換して、＜完成＞です。

一方、ATOKでは、「今日は曇っています」と変換されます。これは、ATOKの場合、「脅迫」は「持つ」ものではないことを知っているので、「きょうはく」という言葉にしたのが間違っていたと判断し、文字数を一つ「減らし」て、「きょうは→今日は」とします。これなら、次の「くもっています→曇っています」と繋がるので、こちらを採用した、というわけです。

ATOKでは、このように、文節の繋がりを判断して言葉を認識する (連文節変換) ので、複数の文節を繋げた状態で一度に変換した方が、変換効率が高い、と言われます。

MS-IMEの場合は、カナの連なりだけを見ている (らしい) ので、文節単位で変換する (スペースキーを押す) ことで、欲しい文字 (漢字など) を効率よく覚えさせる (学習させる) のに有効です。

ATOKとMS-IMEは、は、変換効率以外にも、違いが見られます。

また、ワープロソフトと、日本語変換システムは、呼応している部分もあるので、組み合わせることで使い勝手がわかりやすくなることもあります。また、どちらを使うにしても、上手に変換を学習させることで、更に使いやすくなります。